

災害から私たちのまちや暮らしを守ろう!!

集中豪雨、土砂くずれ、地震などの自然災害は、私たちの予想をはるかに超えて多大な被害をもたらしています。報道されているミャンマーでのサイクロンの猛威や中国の大地震はつい最近のことで、過去に起きた日本での災害も、今なお大きな傷跡を残しています。自然は多くの恩恵をもたらしてくれますが、ひとたび荒れ狂うと、多くの生命や財産を奪います。災害への対策は不可欠で、多久市でもまさかに備えた、自助（自ら守る）・共助（地域で守る）・公助（行政で守る）のネットワーク強化に向けた取り組みを進めています。

佐賀県総合防災訓練

納所地区のみなさんも避難訓練に参加

「水害・地震から私たちの街や暮らしを守ろう!」と、雨季を前に5月11日、佐賀市の嘉瀬川河川敷をメイン会場に水防演習と総合防災訓練が行われました。

九州では初の国と県合同

の訓練で、自衛隊や警察、消防、医療、行政など57機関の関係者約2,000人が参加。総雨量500ミリを超える豪雨災害と、「マグニチュード7・2、震度6強」の地震想定による災害の威力を体験するもので、災害情報の伝達や被害者の救出、搬送などの救助や避難などの訓練が現実さながらに実施されました。これに並行して、県内7



担架で負傷者を搬送しながらの避難（訓練）

か所で水防工法と避難訓練が同時進行。佐賀県の広範囲に大雨洪水警報が出されたとの想定で、多久市では納所地区の85人の住民が、納所小学校体育館への避難訓練に参加されました。

佐賀県と佐賀広域消防局の職員から、避難や救急救命の講習を受け、いざという時の迅速な対応や行動を学びました。また、小学校グラウンドには、国土交通省の人工降雨機が搬入され、避難訓練参加者が、1時間100ミリの豪雨を体験。視界の悪さや、傘やレインコートが役に立たないと感想を述べられました。



AED、心臓マッサージなどの救命講習も実施

市内の危険箇所を

点検パトロール

また、翌12日には市長をはじめ、国や県の各関係機関や市消防団など約40人で、豪雨などで災害発生が心配される市内各地区の巡回パトロールを行いました。



危険箇所を踏査して状況を確認

納所地区の砂防工事をはじめ、大野地区の地すべり対策工事、庄地区の内水排水施設などの防災施設の状況を確認。この後、想定される災害に対する防災設備の状況、危険回避や避難・救助について意見交換、検討も行い、対策を協議しました。



巡回後に各機関担当者と対策を検討



市の防災事業に対して 寄付をいただきました

市に寄付をいただいた東郷孝男さん（北多久町）を4月28日に横尾市長が訪問し、感謝の言葉を述べました。

東郷さんは「市報などで防災事業計画を知りました。役立てていただきたい」と、お話しで、市では、いただいた寄付金を、消防をはじめとする防災事業の推進に有効に活用させていただきます。